

マスコミ各位

令和元年11月22日（金）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、岡野

電 話：098-866-2215

つつが虫病の発生について

宮古保健所管内において、ダニ媒介感染症である「つつが虫病」の患者が3例診断されたことから、医療機関及び広く県民への注意喚起のため情報提供を行います。

ダニ媒介感染症である「つつが虫病」は、県内では2008年以降、宮古保健所管内でほぼ毎年発生しています。これまでの累計患者数は32例で、発生時期は4～7月及び9～12月です。また、32例中30例において発症5～14日前の池間島での行動歴等が確認されています。

つつが虫病は、一般に予後良好ですが、治療が遅れると死亡率が高くなる感染症です。国内においても2007～2016年に発生した患者のうち、約0.5%が亡くなっており、県内においても、2016年に1名がつつが虫病により亡くなっています。山林や野原、畑等に立ち入って1～2週間後に発疹や発熱の症状が現れた場合は、早期に医療機関を受診し、行動歴等を医師へ伝えてください。

2019年の発生状況（11月20日現在）

症例	診断日	年齢	性別	推定感染地域	池間島での行動歴	推定感染地	刺し口
No.1	11/1	80代	女性	宮古島市	あり	草むら	右肩
No.2	11/1	80代	女性	宮古島市	あり	草むら	右大腿部
No.3	11/13	60代	女性	宮古島市	あり	草むら、拝所	左大腿部

【つつが虫病とは】4類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア (*Orientia tsutsugamushi*) を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ（ツツガムシ）に刺されて感染する。ヒト→ヒト感染はない。

臨床症状：発熱(38℃以上)、発疹、刺し口の形成、リンパ節腫脹

潜伏期：5～14日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では北海道を除く全都府県から患者が報告され、ここ数年は毎年300～500人の患者が報告されている。

【予防】

ツツガムシの大きさは0.2mm くらいでとても小さいので、肉眼で見つけることが難しく、刺されても痛みやかゆみを感じることはまずありません。ですので、ツツガムシに刺されないように以下の対策を行うことが重要です。

- ・山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する
- ・むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない(座る時は敷物を使う)
- ・脱いだ服を草むらに放置しない
- ・帰ったらすぐに入浴(シャワー)する
- ・着用した服は使い回さず、その日で洗濯する
- ・山林や野原に立ち入って1~2週間後発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関を受診する

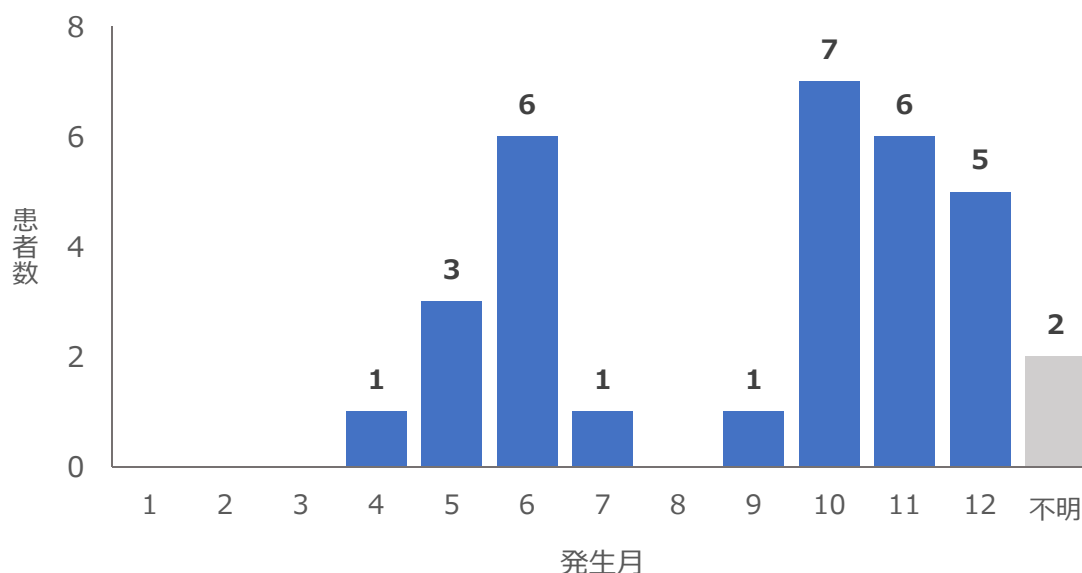
【参考 1】 県内のつつが虫病 年別発生状況

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
患者数	1		1	2		1	2	4	10	5	3	3	32

※2019年は11月20日時点の報告数

※2008年の1例は県内初報告例

【参考 2】 県内のつつが虫病 月別発生状況 (2008-2019年, n=32)



参考 URL (沖縄県感染症情報センターHP より)

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/documents/2012tutugamusi.pdf>